

『新副代表理事の想いを探る』



出席

副代表理事

松田哲也税理士事務所 所長

松田 哲也氏

(高松第5支部)

副代表理事

(有)エスコートライフ 代表取締役

樫原 貴仁氏

(高松第9支部)

司会

広報・情報化委員会 編集長

實川 靖浩氏

(高松第9支部)

司会 早速ですが、同友会での経歴を簡単に説明して頂きたいと思います。

松田 入会は平成20年の11月ですが、翌年からグループ長を2年、幹事長と副支部長を1年ずつ務めた後、2年間の支部長を経て、平成27年度から現在まで経営労働委員長を務めさせていただいています。

樫原 私は平成15年の入会です。平成19、20年に幹事長、平成24年に再度幹事長を仰せつかった後、平成26、27年に支部長を務めています。

司会 支部長、委員長の経験を振り返って、やって良かったと思うことや、できなかったことなどありますか。

松田 支部長という肩書は、やはり大変重いものだとまず感じました。5支部の場合は120人規模の会社の経営者と同じ立場に立たされるわけです。例えば「労使見解」に基づいていえば、「支部長である以上、いかに環境が厳しくとも、時代の変化に対応して、運営を維持し発展させなければならぬ責任がある」わけです。ですから非常に重い肩書だとつくづく感じていました。ただお恥ずかしいところ、私の場合はほんの少し同友会理念をかじっただけで支部長に就任したものですから正直、支部長になって初めて真剣に学び始めた記憶があります。とくに、平成25年の宮崎での中同協の定時総会に参加した折、三宅産業の三宅昭二会長と同行させて頂いたのですが、その時の学びがずいぶん役立ちましたし、またとても良い思い出もあります。

それから、県の青年部の設立にさきがけ、5支部で支部内青年部を立ち上げ、それに参加した人たちが今は県の青年部委員会の主軸になって活躍していることを誇りに思っています。自社経営に関してですが、支部長時代に行なったことは、経営指針書をトップダウン型から社員参加型、そして社員主導型に変えたことです。支部運営も会社経営と同様、成長期から成熟期、そして衰退期という流れを繰り返します



が、残念ながら私はその時代の流れを十分に読み取れなかったことを反省しています。ただ、そのバトンを次の支部長が引き継いで頂いたので、現在は若手役員を中心に円滑な支部活動ができていますので、大変嬉しく思っています。

委員長ですが、経営労働委員会の委員長を務めています。この委員会はまさに労使見解の要になるところです。委員長就任後、役員の方々と伝統ある「経営指針を創る会」の運営に携わりましたが、皆さんと深い議論を交わせたことが私にとっては労使見解を学ぶとても良い機会になったと思っています。香川の「経営指針を創る会」が全国に誇れるものになった背景には、数多くの先輩や役員の方々の努力があったからこそと感謝しています。ただ残念なことには、2年間委員長を務めさせて頂いたにも関わらず、事業承継が上手く図れていないという指摘があり、引き続き委員長を務めさせて頂くことになっています。1年

後には次の委員長にバトンを渡せるよう気持ちを引きしめていくつもりです。

檜原 支部長時代を振り返るとずいぶん9支部の皆さんには助けて頂きました。私自身、役職にこだわりがなかったこともあり、深く考えずに支部長をお引き受けしました。みんなで協力すれば何の問題もなく物事が運ぶのではと安易に考えていたのですが、思うようにいかない時もあり、何事にも皆さんの力がなければ組織は発展できないということをも身をもって体験しました。個人的にはとても良い経験をさせて頂いたと思っています。支部長を2年経験した直後に、今度は自社の社長就任がありました。社員と共に育つという部分では、支部長時代の苦い経験が生かされたように思っています。

先日、弊社の社員に会社の良いところを聞いたのですが、「お金じゃない、働きやすさです。うちの会社ほど働きやすい会社はないですよ」と、うれしい言葉を聞きました。同友会での学びが社内に活かされたような気がします。また「経営指針を創る会」に参加して、指針書作成に取り組んだことが社内の体制づくりに生かされたと思っています。ですので、同友会の発展と共に私自身も成長させてもらったと感謝しています。支部長時代に香川で開催された全国大会では1400名の動員担当として、各地の同友会事務局を訪問しました。そこでたくさん気づきがありました。その一つが香川同友会の良さが理解できたことです。また各県の同友会が抱えている課題なども知ること、そこから香川同友会の今の位置を知

ることができ、大きな収穫でした。支部長・幹事長など重要な役職をさせて頂いているときに限って、会社も忙しくなりました。それを超えて行く経験が成長の元になったと思っています。支部の皆さんにはご尽力頂き、私自身としては本当に有り難いことだったと思っています。

司会 ありがとうございます。次に正副代表理事会の役割について規約にはありますが、改めてお話し頂けますか。

松田 規約・運営細則は皆さんもご存知のことと思いますが、その中で最も重要な事柄は会の方向性を検討し、会員間にそれを広く広めることだと私は受け止めています。現在、来年の定時総会に向けて第7次ビジョンを策定中ですが、それと並行して仲間づくり活動を含めて香川同友会の方向性を会員全般にわかりやすくお示しすることが正副代表理事会の大きな役割だと考えています。

司会 理事会の役割はどうでしょうか？

檜原 感想に近いものになりますが、理事会は会員の代表者として参集し、会の運営や方向性を議決できる場所なので、同友会理念や運動についてのご理解とご協力を頂けるといって大前提の中で会を運営していきたいと思っています。同友会以外にもいろんな団体がありますが、同友会の正副代表理事會及び理事會は、自社が良くなったことを体現されている人たちの集まりであってほしいと願っています。

司会 理事会の現状については、どのように感じていますか。また、どのようにしていきたいとお考えですか。



松田 理事会に出席するようになってまもなく6年になりますが、最近の理事会はそれぞれの課題に対して皆さん真剣に取り組みまれており、意見交換も闊達で非常に頼もしく感じています。理事会をどのようにしていきたいかについてですが、不易流行の言葉のように、いつまでも変化しない本質は忘れずに、新しい変化を重ねていけるものを取り入れていくことが大事ではないかと思っています。いつまでも変化しない本質的なものはもちろん同友会理念のことで

すが、それに基づいて新しい時代の流れに沿った変化も必要と感じています。

榎原 ここ1年は理事会に出ていませんが、それ以前の経験からお話をすると、当時の理事会は闊達な意見が出るような場ではまだまだなかったような印象があります。理事になられる方は同友会理念の体現者であり、またそれを目指して参加して頂き、同友会活動に参加して自社はこんなに良くなったということを出せるような理事

会になれば、もう少し変わってくるような気がします。同友会に入会される方は、おそらく自社が抱える課題や問題を解決したい、学びで自社を成長させたい等々、様々な目的を持っていらっしゃるはずですから、同友会に入会して自社が良くなったという部分がないと、今後の仲間づくりや会の魅力にも係わってくるだろうと思います。そういう体現者の集まりであり、またそこで学び、それを自社に反映することができればと思います。結果が形で現れるような体現をぜひして頂きたいと思っています。

司会 仲間づくりにについてお話が出ていましたが、仲間づくりに関して思うところはありますか。

松田 私は経営について学びたくて入会したにも係わらず、増強に次ぐ増強で、例えに出席するにも増員をかけるという話が行うような状況だったので、増強とは、仲間づくりとは何だろうかかと疑問を感じたときがありました。ですが、昨年の同友会理念の勉強会で、福岡の中村高明氏が会社経営においても社員数が増えればしっかりした組織づくりが必要になってくるという話をされました。組織がしっかりすれば質が高まり、社員も増える。新卒も増える。そう述べていました。それを聞いて腑に落ちるものがありました。ですから本当の仲間づくりは、増で数が増えたと質が良くなる。質が良くなればおのずと数が増えるわけです。そのあたりをそれぞれの会員が理解し、理事会メンバー等々がその語り部となれば、いい仲間づくりができるのではないかと思います。個々の仲間づくりについて

の理解がまずは大事なような気がしますが、

榎原 仲間づくりに関しては私自身、辛いものがあります。一昨年の香川での全国大会の動員部会長の時に、数ではない。数に捉われるとそこから目的がすり替わってしまうという話をした記憶があります。この全国大会で香川は変わるはずだ。変わるための全研だから、そのための仲間づくり。動員をしましょうという話をしました。仲間づくりは数字だけに追われるのではなく、何のためのものなのかを会員がしっかりと理解した上でのもだと思います。

松田 たしかに、仲間づくりにについては、数という目標数値だけでなく、何のためにといった目的意識の共有が非常に大事だと思います。

榎原 私自身の反省も込めてですが、ややもすると、やりっ放しになりがちなんです。役員が1、2年で替わることもありますが、どうしても継続性とPDCAのチェックの部分が緩くなりがちなので、その点は気をつけなければと強く感じます。

司会 では、同友会を一言で表現すると、どういう会でしょう。

松田 昨年10月の支部例会で「同友会活動と自社経営について」を報告させて頂きました。入会からグループ長時代は疑問だらけの時代で、幹事長時代は「学びごっこ」の時代、同友会で学んだことを自社に持ち帰り、それを社員に押し付けていたように思います。私が聞いた報告や実践事例をそのまま受け売りですから、社員の気持は動くはずがありません。支部長時代になって

初めて学びの大切さが身にしみたことと、全研での学びと実践によって大きな気づきがあったように思います。同友会を一言で表現すると、「真剣に係れば人も会社も変わる。変わる」です。これに尽きると思います。

櫻原 同友会に係わることで、どんな形にする自社が良くなればいいのかではないかと思えます。同友会理念に触れ、自社を良くしようという人たちが集まって何かが生まれていく会だろうと思えます。私自身、そのあたりの理解が浅く、ずいぶん試行錯誤を繰り返していたのですが、最近では、経緯はそれぞれ異なっても、会社が良くなればと思っています。同友会を一言で表すと、「係わることで変革し、成長する場」だろうと私は思います。

司会 続いて、香川同友会の問題と課題についてお聞かせ下さい。

松田 一つ目は、地域経済の衰退や人口減少により、私たちの経営環境は今後ますます厳しくなることが予測されています。そのため働く人々にとって魅力ある企業づくりを進めていくことが大事になってくると思えます。二つ目は、同友会の三つの目的の総合実践と仲間づくりに努め、役員が運動の語り部になることです。三つ目は、税制や金融問題等の学習を会内や企業内で進め、他団体との連携を進めることです。課題はたくさんありますが、一言でいえば「人を生かす経営の総合実践」で、香川同友会を強く大きくしていくことではないかと思えます。いわば、香川同友会が起業家や事業承継者の登竜門的存在になればと

思っています。

櫻原 近年、広報・情報化委員会や政策委員会等を始め、各委員会がめざましい発展を遂げているような印象があります。例えば政策委員会がアンケートの集計を県に提出すると、ここ数年は担当者が丁寧に対応してくれるようになりました。「経営指針を創る会」の活動も目を見張るもの

があります。全国でもトップレベルだとか。その他各委員会が独自に進化しています。これからは、それぞれの委員会の取組みをまとめて、効果的に外部発信していく方策を考えていくことが求められると思えます。

それと各委員会の活動を自社に活用できる仕組みづくり、「人を生かす経営の総合実践」ができる同友会になっていかなければと思います。それには、まずは各役員や理事、もちろん正副代表理事の会社が先けて発展していくことが絶対条件だと思っています。役を受けることが強靱な会社づくりと信じています。

松田 「人を生かす経営の総合実践」につ



いては、理事会前の1時間を使って経営労働・共同求人・社員教育・障がい者問題委員会の4委員会が「人を生かす経営推進会議」の名で打ち合わせを行なっています。ここに他の委員会が加わって連携すればさらに強靱な組織になると思っています。

司会 最後に、今期の抱負と会員さんに伝えたいことをお願いします。

松田 昨年の企業変革支援プログラムの取り組みや、仲間づくりの期首回復、新旧役員交流会等での会員の皆さんの活動状況には本当に目を見張るものがあります。それが香川同友会の強靱な組織運営に繋がってきていることを私は肌で感じています。

そんな中で自社においては自ら経営者としての姿勢を常に正し、同友会理念をさらに深掘りすると共に、労使見解「人を生かす経営」を、自社経営で実践していかうと考えています。会運営にあたっては、同友会運動を広めていくことで組織として「自主・民主・連帯の精神」が原動力となり、個々の会員の皆さんが「三つの目的」を指し、「地域と共に歩む中小企業」となって頂くことに微力ながらお手伝いをさせて頂こうと思っています。

櫻原 私自身は、まだまだ経営者としては未熟です。ですから、副代表理事にふさわしい会社にぜひともなりたいと思います。みなさん、叱咤激励をどんどんしてください。香川同友会は全国でもトップの組織率10%を誇る特色のあるところなんです。そして変革の時期に香川同友会は来ていると思います。強みを活かして、ぜひとも次のステップに皆さんと共に歩を進めたいと思います。